

Conferencing News & Analysis-- Independent & Unbiased Perspective Since December, 1999

電話会議・テレビ会議・Web 会議専門ニュースレター 展示会レポート 2004 年 5 月

創刊 1999 年 12 月 8 日 発行/編集: 橋本啓介 k@cna.jp Copyright 2004 Kay Office All rights reserved.

展示会レポート

ソニープロフェッショナル&ビジネスソリューション 2004

2004 年 5 月 27 日 - 28 日

プリズムホール(東京ドームシティ内)

<http://www.sony.jp/products/Professional/pbs2004/index.html>



PCS シリーズテレビ会議システムのデモ風景(前頁写真)

先月 5 月 27 日、28 日に都内で開催された、“ソニープロフェッショナル&ビジネスソリューション 2004”では、放送機器関係や AV 機器関係などと合わせ、テレビ会議システム PCS シリーズ、SIP ソリューション、運営管理ソフト、そしてモニタリング関係の製品及びソリューションの展示などを行っていた。テレビ会議システム PCS シリーズ関係では、次期新製品(参考出品)を中心に、テレビ会議関連の製品及びソリューションを展示しており来場者の関心を引いていた。

現在ソニーでは、PCS-1 と、最近国内で発表された、PCS-11 の2機種があるが、それに加え、新たにハイエンドタイプのテレビ会議システムと、オールインワンタイプの液晶モニタータイプの2機種を今年中に市場に投入し、同社のテレビ会議ビジネスの強化を図る。

今回の2機種の製品のポジショニングであるが、PCS-1 で今までローエンドからハイエンドまで各種オプションによる機能追加などで幅広いニーズに対応してきたが、ハイエンドタイプの機種を新たに投入することにより、PCS-1 ではカバーできなかった機能・性能を実現することにより、PCS シリーズの競争力を高め、より高度な利用ニーズにも対応する。

また、オールインワンタイプの製品では、デスクトップ環境に焦点を絞り、より簡単で利便性を高めた製品設計となっており、ソニーマーケティングによると、性能・機能的には PCS-1 と同等相当となっている。



ハイエンドタイプテレビ会議システム

具体的な性能機能等については、ハイエンドタイプの機種では、PCS-1 では、2Mbps の帯域までサポートしていたが、それが倍の 4Mbps まで対応する。さらに、スピードマッチング、多地点接続環境で H,264 のサポート、5 モニター接続サポートなどがあるが、多地点接続環境では、PCS-1 と同様、6 ヶ所までの同時接続が、2 台を接続してカスケードした場合は、10 台までの多地点接続が行える。

オールインワンタイプの液晶モニターのテレビ会議システムだと、20 インチの横長液晶モニター、デジタル PTZ カメラ、スピーカーなどが内蔵されており、PTZ カメラは、モニター上部に内蔵され、リモートコントロールでカメラ位置をコントロールできる。また、スピーカーについては、モニター下部に隠れた感じで、モニター下部から下に向けて音を吹き出す感じで音を出し、前面からは見えない設計になっている。



オールインワンタイプテレビ会議システム

価格的には、オールインワンタイプが、50 万円から 100 万円の範囲、ハイエンドタイプが 150 万円から 200 万円の範囲になりそうだが、現時点では参考出品なため変動する可能性は高いと思われる。



その他、テレビ会議関係では、今秋リリース予定のテレビ会議端末管理ソフトウェアの展示、NECのSIPサーバー、NECのIPフォン、SIP対応のPCSシリーズのテレビ会議を組み合わせたSIPベースのテレビ会議ソリューション(PCSシリーズのテレビ会議端末は今後SIPに対応する予定)、多地点接続機能を提供するソリューションなどが展示されていた。



運営管理システム

その中で、多地点接続機能を提供するソリューションに



ついてだが、従来の多地点接続機能の考え方とは違う発想で設計されたシステム(写真左)で、拠点数に合わせて写真下部に対向でPCS-1を搭載する。

従って、この装置を使って10拠点で多

点テレビ会議を行う場合、各拠点に10台以外に、このラックに収納する10台のPCS-1が必要になる。(写真では縦に収納しているのが見えるかと思う。)それではどのように映像や音声のミキシングを行っているかという点、別途ミキシング装置を使用して、MCU(多地点接続装置)が行う映像音声のミキシングを擬似的に同様な処理機能を実現(エミュレート)する。ミキシング機能は、今回の展示ではポリコム(VORTEX)を利用していたが、各種操作はPC画面から行う。各拠点からの接続は、収納されている対向のPCS-1が1対1で接続されているため、実際の多地点接続装置(MCU)に比べ安定的に接続が可能で、どこかの拠点が仮に接続で不具合が生じたとしても、それぞれ1対1で接続されているため他の接続は影響を受けなく映像などのクオリティも多

点接続装置によく見られる処理遅延などが無いため、たとえば映像の切り替えなどの処理が早い。また、障害時の切り分けも行いやすい。

サポートしている拠点数は、128拠点まで対応しているが、その倍のテレビ会議システムを購入する必要があるため、コスト的に高くまた、専有するスペースもそれなりのスペースをとるという感じになり、幅広いユーザーに対応した製品という感じではないが、映像の品質の高さ、処理遅延が低いこと、障害時の切り分けなどが容易などハイエンド的なニーズには充分対応できると同社では見ている。



多地点テレビ会議ソリューション

(終わり)

CAN リポート・ジャパン

編集長 橋本 啓介 k@cna.jp

(CNA Report 展示会レポート 2004年5月)